

感染症発生動向調査委員会報告 7月

《今月のピックアップ》

- 腸管出血性大腸菌感染症が11件と増加しています。
- ヘルパンギーナに減少が見られていますが、過去5年と比較しても高めです。
- 手足口病にも減少が見られていますが、やはり過去5年と比較しても高めです。
- 流行性耳下腺炎は2週連続で減少していますが、過去5年と比較しても依然高めです。

平成22年6月21日から7月25日まで(平成22年第25週から第29週まで。ただし、性感染症については平成22年6月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成22年 週一月日対照表

第25週	6月21～27日
第26週	6月28日～7月4日
第27週	7月5～ 11日
第28週	7月12～18日
第29週	7月19～25日

全数把握疾患

<腸管出血性大腸菌感染症>

11例の報告がありました。過去3年間の市内の発生状況では、例年夏期にピークが見られています。8月の増加が心配されます。8月は食品衛生月間です。

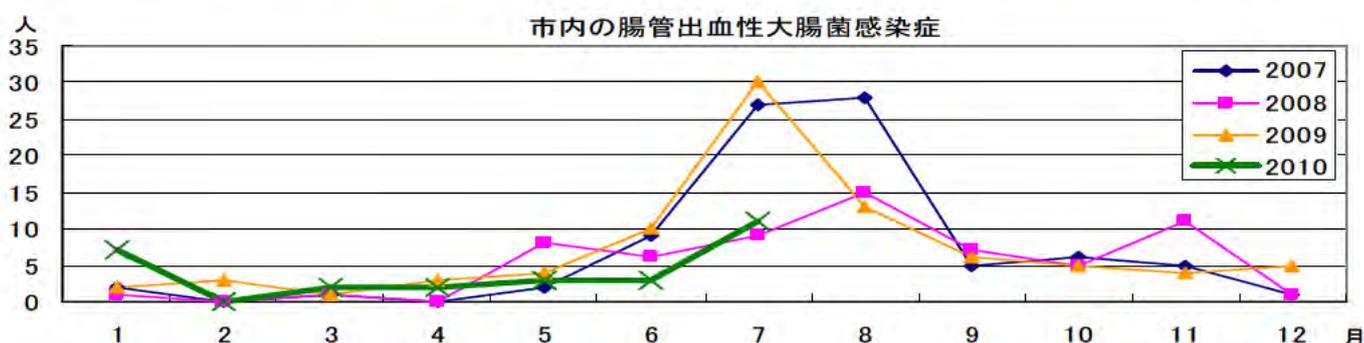
家庭でできる一般的な6つのポイント(①新鮮な食材の購入 ②冷蔵・冷凍での食材保存 ③手洗いの励行、清潔な調理 ④肉・魚の十分な加熱 ⑤食事前の手洗いと調理後はすぐに食べる ⑥清潔な容器で保存し温め直すときは十分に加熱、長時間過ぎたものは捨てる)を心がけましょう。

また腸管出血性大腸菌感染症は全国的にも件数も多く、時に幼児が重症化することが問題になりますが、菌は家畜の腸にいるので新鮮な肉を購入しても菌が付着している可能性があるため、焼肉の取り箸を区別することや、生肉を切った包丁やまな板を使用の都度、洗浄・消毒することが大切です。

また、菌は熱に弱いので、よく加熱し、生(焼け)肉を食べないことが重要です。特に、抵抗力の弱い乳幼児には良く焼いた肉を与えるようにしましょう。

発生時の対応については、こちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所HP http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/infc_o157_guide.html



<A型肝炎>

2例の報告がありました。感染経路は不明です。4月から全国的に報告数が多かったのですが、7月に入り全国での報告数は例年並みに落ち着いています(週5～6件程度/全国)。

<レジオネラ>

5例の報告がありました。5例とも肺炎型でした。6月にも5例の報告があり、4例が肺炎型、1例はポンティアック型でした。2005年10月に成人市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)が発行され、中等症以上

の患者には、レジオネラ尿中抗原検査を実施するとされたことにより、全国的に2005年以降患者が増加しています。

市内で昨年1年間では16件の発生報告でしたので、今後の発生動向に注意が必要です。

<麻しん>

5例の報告がありました。予防接種歴があるのは3例でした。麻しんは非常に重篤な障害を残すことがあり、時には死に至ることのある疾患です。必ず定期的予防接種を受けましょう。

<HIV感染症>

6月の追加報告が2例ありました。今年21例の報告があり、18例(86%)が男性です。うち12例(67%)が同性間性的接触によるものです。男性の同性間性的接触への注意喚起が必要です。

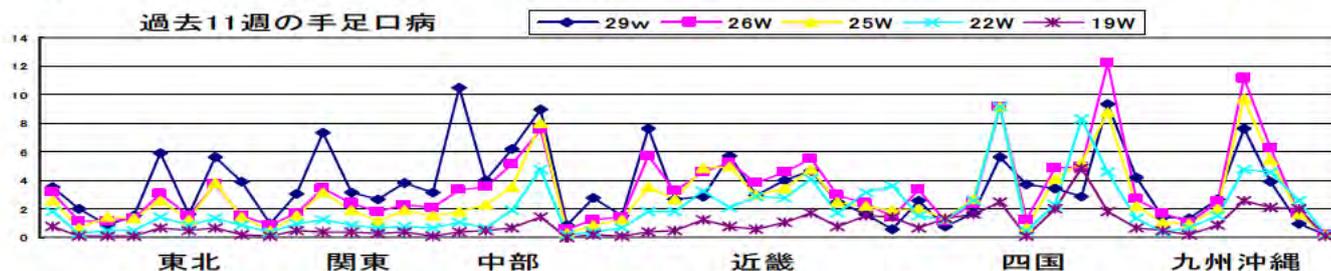
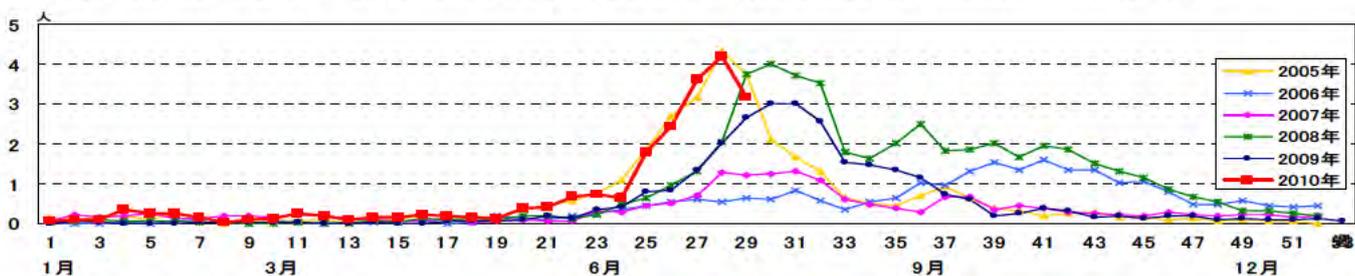
定点把握疾患

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:91か所、内科定点:59か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計197か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計150定点から報告されます。

<手足口病>

第29週は定点あたり3.18でした。行政区別では泉区6.25、緑区6.00、神奈川5.67が高めです。全国では3.53、神奈川県(横浜、川崎、相模原を除く。以下県域)3.39、川崎市2.64、東京都3.78です。全国的にも第20週に入り増加が見られていましたが、第28週の定点あたり3.94をピークに下がっていますが、西日本の減少と、関東、中部を含む東日本の上昇が見られます。横浜では第28週の4.21がピークでした。

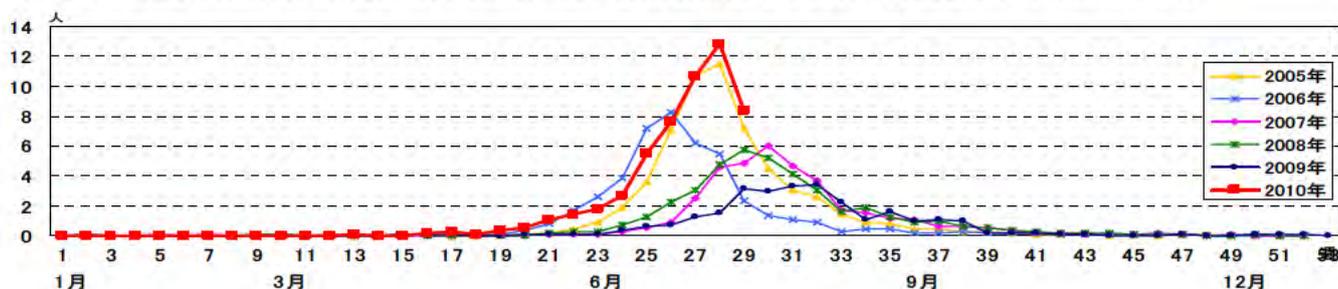


<百日咳>

第29週は市内で8人の報告が見られ、定点あたり0.10でした。10歳未満が4人、10歳以上が4人でした。全国0.05、県域0.21、川崎市0.03、東京都0.08です。

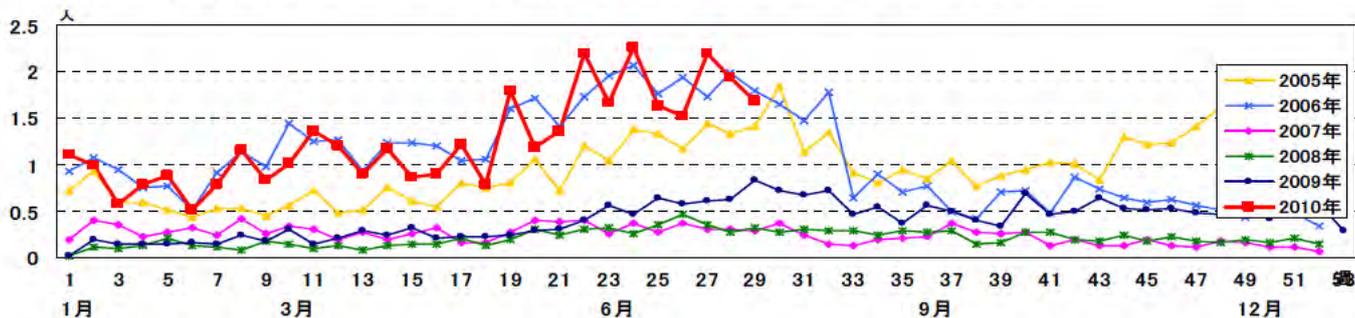
<ヘルパンギーナ>

第29週は定点あたり8.33です。行政区別では磯子区21.00、緑区16.80、港北区14.75、泉区14.00が高めです。全国では5.04、県域6.78、川崎市9.39、東京都6.45です。未だに過去5年でも高めです。



<流行性耳下腺炎>

第29週は定点あたり1.69です。行政区別では、泉区6.00、緑区3.40、神奈川区3.33が高めです。全国では1.30、県域は1.68、川崎市0.91、東京都0.93です。未だに過去5年でも高めです。



<性感染症>

6月は、性器クラミジアは男性19例、女性22例、性器ヘルペス感染症は、男性9例、女性8例です。尖圭コンジローマが男性2例、女性6例です。淋菌感染症は男性8例、女性1例です。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点 35 件(鼻咽頭ぬぐい液 33 件、ふん便 2 件)、眼科定点 1 件(結膜ぬぐい液)、基幹定点 4 件(咽頭ぬぐい液 3 件、髄液 1 件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎 21 人、手足口病 7 人、ヘルパンギーナ 4 人、胃腸炎 2 人、発疹症 1 人、眼科定点は流行性角結膜炎 1 人、基幹定点は無菌性髄膜炎 2 人、手足口病とヘルパンギーナ各 1 人でした。

8月10日現在、小児科定点の気道炎患者 2 人とヘルパンギーナ患者 1 人からエコーウイルス 3 型、気道炎患者 1 人からコクサッキーウイルス B4 型、気道炎患者 1 人からアデノウイルス(型未同定)、基幹定点の無菌性髄膜炎患者からヘルペスウイルス 1 型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気道炎患者 4 人からコクサッキーウイルス A(CA)2 型、気道炎患者 4 人、手足口病患者 3 人、ヘルパンギーナ患者 2 人から CA4 型、気道炎患者 3 人、手足口病患者 3 人、ヘルパンギーナ患者 1 人から CA6 型、胃腸炎患者 1 人からエンテロウイルス 71 型、基幹定点の手足口病患者から CA6 型、ヘルパンギーナ患者から CA4 型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【検査研究課 ウイルス担当】

<細菌検査>

7月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体が3件で1件から *Salmonella Saintpaul* が検出されました(表)。基幹定点からは菌株受付が7件、定点以外の医療機関からは菌株が8件でした。そのうち、基幹定点から、腸管病原性大腸菌が1件(O18:H7)、定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌 O157、VT1&2 が各5件、O157、VT2 が各2件、O145、VT1 が各1件検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの7件で、A群溶血性レンサ球菌が4件から検出されました。その血清型はT1が3件、T12が1件で、また、G群溶血性レンサ球菌が1件から検出されました。

定点以外の医療機関から百日咳疑いの検体受付が5件ありましたが百日咳菌は検出されませんでした。

表 感染症発生動向調査による病原体検査(7月) 細菌検査

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別	7月			2010年1～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	3	7	8	13	60	25
菌種名						
赤痢菌					2	2
腸管病原性大腸菌		1			6	
腸管出血性大腸菌			8		2	22
腸管毒素原性大腸菌					2	
パラチフスA菌						1
サルモネラ	1			2		
不検出	2	6		11	48	

その他の感染症

検査年月 定点の区別		7月			2010年1～7月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		7		5	59	3	16
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1	3			22		1
	T4				2		
	T6				1		
	T12	1			5		
	T13						1
	T25				1		
	T28				7		
	T B3264				1		
	型別不能				3		
G群溶血性レンサ球菌		1			1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						2	
バンコマイシン耐性腸球菌							3
髄膜炎菌							1
Streptococcus suis							1
Corynebacterium ulcerans						1	
不検出		2		5	16		9

* 定点以外医療機関(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

[検査研究課 細菌担当]